たねや グループ 掲載記事

「黄綬褒章」受章（内閣総理大臣表彰）

中日新聞 2010 年 11 月 2 日(火)19 面　滋賀総合

2010年（平成22年）11月2日（火曜日）　中日新聞

秋の褒章 県内から8人

秋の褒章受章者が二日付で発表された。県内からは、模範的に業務に励んだ人に贈られる黄綬褒章に四人、公益のために尽力した人が対象の藍綬褒章に四人の計八人が選ばれた。そのうち四人を紹介する。

黄綬褒章 山本徳次さん（70）
たねやグループCEO
東近江市八日市上之町

まねできない味売る

和・洋菓子製造、販売、農場のたねやグループ最高経営責任者（CEO）。「まねのできないものを売る」の信念で、東京や大阪、名古屋のデパート出店。もなかやバームクーヘンなどで独自の味をアピールする。

「価格の決定は作り手にある。いいものをつくれば、もうかる」。なかったといわれてきたこの道五十年以上の菓子作りの精神は先代の教え。時代の変化に敏感で「消費者が何を求めているかを考えないかん」と話には耳を傾けるが、「お客さんの言いなりにならない。新しい命の続く限り、新しいものを提案したい」と挑戦し続ける。

「受章は追いに対する姿勢が間違っていることに対する激励。社員に厳しいが、孫のように出入りする子どもたちに優しい顔を見せる。

黄綬褒章 藤井吉造さん（69）
農業
長浜市唐国町

水稲の苗作り省力化

水稲苗作りの省力化に向け、水田に直接種もみをまく栽培方法を広めた。農業大学の教授に幾度も教えを請うなど勉強を重ねた。

「農業が大事と言いながら、実は軽く見るような世の風潮に加え、農業従事者の高齢化で、生命力に溢れ、収穫の組み合わせができた。

「人間が生きるとは、一番大切なものから第一次産業なんだ」との、高校の担任の言葉に触れ、農業の道へ。最近は「農業が大事と言いながら、実は軽く見るような世の風潮がある」と感じる。手間ひま掛けて育てた米を「食味鑑定士」の資格を生かし、一粒一粒の味を確かめる。

「一つ一つ」と信じ続ける。（小畑裕）

黄綬褒章 藤居鉄也さん（62）
県酒造組合会長
愛荘町長野

付加価値を高め発信

三十年以上にわたり、江戸時代から続く酒屋「藤居本家」を経て、二〇〇八年に県酒造組合会長に。日本酒の魅力を広く知ってもらおうと、地酒の学習会を開いたり、試飲や販売を行う催しなどに力を注ぐ。「受賞を励みに、付加価値を高めて国内外にも発信していきたい」と力を込める。

藍綬褒章 山本邦彦さん（63）
近畿マスチック事業協同組合副理事長
大津市柳川

塗装の質向上に尽力

建物の内外壁の塗装業に携わって四十七年。建築仕上塗材（マスチック）の施工技術を広め、組合加入事業者のレベルアップを図る。

「任せられた仕事は多く、中小事業者にとって必要な業界全体で達成するのが目標」。九年前の副理事長就任後、業界全体の底上げを図ってきた。

「顧客の信頼を得ることを、業界全体で達成するのが目標」。九年前の副理事長就任後、真っすぐな職人の気質が塗装を支える力となっている。（林勝）

そのほかの皆さん

黄綬褒章
- 守山市中町　北川三好（61）　栗東市消防団長、消防功績
- 砂川勇（69）　元大津市民病院理学療法士、業務功績
- 市中沢　近江八幡市八日町
- 藍綬褒章　吉谷福平（74）　保護司、栗東保護司会長、栗東市今
- 川嶋幸四（64）　守山市消防団副団長、消防功績
- 津町自治会

京都新聞 2010 年 11 月 2 日(火)24 面　地域・総合

2010年（平成22年）11月2日　火曜日　京都新聞　地域・総合 24

各分野 社会に尽くし

秋の褒章 県内受章者

叙勲などと同様に発表された2010秋の褒章受章者のうち、滋賀県からは8人が受章した。それぞれの功績を紹介する。

- 理学療法士会発展願い20年
- 稲の植え付けを いち早く導入
- 人材育成努め
- 塗装技能指導
- 生み出し続け
- 新たな菓子を
- 女性消防隊の設置指導に力
- 消防団の処遇改善訴え実現
- 地酒造り40年普及に尽くす
- 青少年更生へ保護司22年間

読売新聞 2010 年 11 月 2 日(火)29 面　地域

秋の褒章 県から8人

秋の褒章で、県内からは個授4人、藍授4人の計8人が受章した。3日付で発令される。

黄綬　たねや社長
山本 徳次さん 70
（東近江市八日市）

時代にあった菓子作り挑戦

「基本の姿勢さえ崩さなければ、作りに取り組んだほか、洋菓子分野でも店舗を重ね、「バームクーヘン」を親会社に仕立てた。和菓子店のたねやと洋菓子店のクラフトハリエ」を全国に50店舗以上、展開する。

50年には後継者育成のため、栗子の職業訓練校を開校し、2003年には「近江を代表する菓子を作り出す」を設立。近江を代表する菓子を作り出す。

「お菓子屋にならんとあかんで」と、必死に言い聞かせている」と笑う。

今後の展開は「今の時代にあった商品作りに挑戦し続けること」。新商品開発への情熱は、70歳を迎えても衰えることはない。

喜びの受章者

- 川嶋 幸四郎（64）（守山市消防団副団長）　守山
- 砂川 勇（69）（元大津市民病院理事長）　栗東
- 吉谷 福平（74）（保護司）　栗東
- 山本 徳次（70）（たねや社長）　東近江
- 山本 邦彦（63）（近畿マスチック事業協同組合副理事長）　大津
- 藤井 吉造（69）（農業）　長浜
- 藤居 鉄也（62）（県酒造組合会長）　愛荘
- 北川 三好（61）（栗東市消防団長）　栗東

たねや グループ 掲載記事

「黄綬褒章」受章（内閣総理大臣表彰）

朝日新聞 2010 年 11 月 2 日(火)25 面　滋賀版

安全安心 おいしく

黄綬褒章 たねやグループCEO

山本徳次さん（70）

菓子づくり一筋に人生をささげてきた。「滋賀のみなさん」に支えられたからこそ、全国展開しても成功できた。

秋の褒章 県内は8人

すぐれた活動で社会に貢献した人をたたえる「秋の褒章」が発表された。県内からは黄綬褒章に4人、藍綬褒章に4人の計8人が選ばれた。3日付。受章者は次のみなさん。

◇―黄綬褒章―◇

砂川　勇（医療衛生業務）69 近江八幡

藤井吉造（農業）69 長浜

山本邦彦（マスチック工事業）63 大津

山本徳次（和生菓子製造工・卓越技能）70 東近江

◇―藍綬褒章―◇

川嶋幸司（消防）64 守山

北川三好（消防）61 栗東

藤居鐵也（酒類醸造業）82 愛荘

吉谷孫平（更生保護）74 高島

カッコ内は活動分野、数字は年齢。氏名は朝日新聞の字体で表記。

地元への感謝の気持ちを忘れない。

1872年から続く老舗の和菓子屋の3代目。洋菓子にも挑戦し、よりわした食感のバームクーヘンが大ヒット。押しも押されもせぬ全国ブランドに育て上げた。

「良いものを作れば、もうかる」という父親の教えを守り、安全・安心でおいしい菓子作りに取り組んだ。「自分の子や孫に食べさせたいものを作るのは当然ですから」

商いとは何か。「モノを売るだけじゃない。自分という人格を売るという気持ちが一番大切」と考える。社員には農業体験で草むしりをさせる。農家の苦労を知ってこそ、良い商品が生まれ、自信を持って売れるとの思いがある。

和菓子のたねや、洋菓子のクラブハリエなど、10社・団体の従業員973人（5月現在）を率いるたねやグループCEO。神戸から東京まで6都府県35店舗を展開する。

2人の息子もたねや社員。「長年かけて培った菓子への知識を次世代に継承したい」と言う。4人の孫たちにも、会うたびに「菓子屋になりや」と声をかけている。

産経新聞 2010 年 11 月 2 日(火)22 面　滋賀版

滋賀

秋の褒章 県から8人に栄誉

喜びの受章者（敬称略）

黄綬褒章

株式会社たねや社長

山本徳次さん（70）＝東近江市

「物語」を食べてもらう

ニュースの通報は 大津支局

毎日新聞 2010 年 11 月 2 日(火)21 面　滋賀版

21 滋賀 2010年（平成22年）11月2日（火） 毎

滋賀

「たねや」社長

山本徳次さん（70）

秋の褒章 県内8人受章

喜びの受章者（敬称略）

◇―黄綬―◇

砂川　勇（69）＝元大津市民病院歯学診療科歯学第1室主任、近江八幡市

藤井吉造（69）＝農業、元県指導農業士会副会長、長浜市

山本邦彦（63）＝建築塗装会社「ヤマモト」社長、大津市

山本徳次（70）＝製菓「たねや」社長、東近江市

◇―藍綬―◇

川嶋幸司（64）＝守山市消防団副団長、守山市

北川三好（61）＝栗東市消防団長、栗東市

藤居鐵也（82）＝県酒造組合会長、酒蔵「藤居本家」七代目蔵元、愛荘町

吉谷孫平（74）＝保護司、高島市

県酒造組合会長 藤居鐵也さん（62）

新営祭に神酒献上

常に「本物の味」追求

滋賀報知新聞 2010 年 11 月 2 日(火)1 面

滋賀報知新聞

平成22年11月2日（火）

現代の名工・たねや社長

山本徳次氏に黄綬褒章

菓子づくり一筋

「身に余る光栄」と喜び語る

現在も菓子職人として活躍する山本徳次氏

滋賀報知新聞

平成22年(2010) 11月2日(火)